

「過ちては、すなわち、改むるに、憚ることなかれ。」この句は論語の中で、学而篇と子罕篇と2回出てくる。

過ちは聖人でない限り、どんな人も免れないものである。だから、過ちと認めたら、すみやかに憚らさず（おそれ避けるようなことをせずに）改めなさい。と孔子様がおっしゃった。

過ちは誰だっける。このことは一応、だれでも解っている。しかし、他人の過失はよくわかるが、自分の過失を素直に自分で認めることは難しい。認めることが恐ろしいからこれを避ける。家の中で、私と妻が喧嘩をする。悪くて過ちを犯したのは常に妻のほうであり、私は常に正しい。

「私が悪いから喧嘩しました…」とは誰も言わないし、思わない。

人間は中々しぶとく、どんなに過ちを犯しても、いつの間にか、それを正当化する特技を持ち合わせている。そんな特技を生かしながら、武器にしながら生

きている。

名声や名誉や地位財産を築き上げて、うぬぼれたり、いばったり、人を見下げたり、逆にそれらがなくて人を恨んだり、ひがんだり、暴れたりする…そんな自分の人生がどんなに空しいものか。目を閉じるとき「嗚呼、わが人生はあやまちだった」と気づいた時はもう遅い。

ひよっとすると、私たちは過失だらけの人生を、過失と認めることが怖いために直視することを避けながら歩いてはいないだろうか。せめて、過ちだらけの自分の人生を謝っていいこう。

頭を下げながら…。

▶孔子聖蹟図



論語大学について

かつて、私たちの郷土・多久は先人たちの努力により佐賀藩内はもちろん諸藩に先駆けて邑校・東原庠舎、そして聖廟を建立。この地に「文教の里」を作り上げた。今一度、私たちは先人たちの血のにじむような努力を思い起こし、その実行に努めるべきではないでしょうか。その願いを込め、元学校長 故・不二見達朗氏が30数年前に多久市報に連載寄稿した論語解説を復刻するものです。

編 集 後 記

昨年4月の多久市議選で7人の新人議員が誕生しました。この「議会だより」は7人の新人の内6人の広報委員会で制作しています。この6人の新人議員による、「議会だより」は今回で3号目の発行になります。毎回制作に当たっては、より多くの市民のみなさまに多久市議会のことをご理解いただくためには、どうしたらわかりやすい内容になるのか。「論語大学」をスタートさせたり、挿絵を入れたり、紙面割を変えたり、スタッフ一同、四苦八苦していますが、まだまだ納得のいく内容には至っていないと実感しています。そこで、年明けに全国の「議会だより」の審査会で賞を獲得している北部九州の2つの自治体の議会を視察して、参考になる点を積極的に取り入れ多久市議会だよりの紙面を刷新したいと考えています。来年の今頃は、市民のみなさんから「多久市の議会だよりがわかりやすくなった」「議会だよりが面白い」のお言葉がいただけるように。

(広)

